



2024.11.12

2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明会資料

セイノーホールディングス株式会社（9076）

目次

01

2025年3月期 第2四半期（中間期）
決算概要

02

2025年3月期 業績予想

03

MDロジスのグループINによる
価値創造への道すじ

04

企業価値向上の取り組み

Appendix

本日お伝えしたいこと



- 2025年3月期第2四半期は、**増収・営業増益**となりました。輸送事業で、特積みで長距離・高重量帯の強みを活かして、想定以上の単価上昇・日当り物量の伸長を実現、営業日数が1.7日少ない中では健闘、自動車販売事業等が順調に推移したことも貢献しました。
- 通期業績予想を**上方修正**しました（**営業利益ベースで約23億円**）。10月1日にMDロジス（旧三菱電機ロジスティクス）をグループに迎えたことが主因です。中期的にも、ロードマップ2028の成長ドライバーであるO.P.P.（Open Public Platform）の拡大、ロジスティクスの高付加価値化を推進することができると確信しています。
- 企業や業界の垣根を超えた「共創」による持続可能な社会の実現、Team Green Logisticsの取り組みを加速します。企業価値向上に向けた取り組み、投資家の皆さまとの対話も強化していきます。

MDロジスグループINに伴い 目線を「世界」へアップデート



「SEINO LIMIT～この世界の繁栄へ、心をつなぐ～」

Purpose

すべての人に笑顔
と幸せを届ける

Dream

傍を楽にする

Belief

心繋ぐ

Mission

価値創造～+α
の豊かさの提供

Vision

この世界で価値を提供する
共創プラットフォームの構築

Value

時・氣を逸しない



01

2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算概要

P / L : 増収・増益



事業では増収・増益、期初想定を上回る特損などにより四半期純利益は減益

| 単位:百万円 | 23.9 | 24.9 | 前年同期比 | 計画比 |
|------------------------|---------|---------|---------|---------|
| 売上高 | 315,510 | 331,604 | +5.1% | +4.6% |
| 売上総利益 | 35,354 | 38,199 | +8.0% | |
| (粗利益率) | 11.2% | 11.5% | +0.3pt | |
| 販売管理費 | 24,035 | 25,124 | +4.5% | |
| 営業利益 | 11,318 | 13,075 | +15.5% | +9.0% |
| (営業利益率) | 3.6% | 3.9% | +0.3pt | |
| 親会社株主に帰属する 第2四半期純利益 | 7,441 | 6,434 | ▲ 13.5% | ▲ 14.2% |

売上高

前年同期比 +5.1% 計画比 +4.6%

輸送事業は、適正運賃収受の進展による単価上昇や、長距離・高重量帯の強みを活かした施策による物量の伸長や新規連結の効果もあり増収、自動車販売事業などの増収も加わり、16,093百万円の増収

営業利益

前年同期比 +15.5% 計画比 +9.0%

輸送事業では、営業日数や外注費増加等の影響はあったものの、単価上昇の効果もあり増益、自動車販売事業などでの増益も加わり、1,756百万円の増益

第2四半期純利益

前年同期比 ▲13.5% 計画比 ▲14.2%

インドネシアやHEXなどでの持分法投資損失発生（833百万円）や、固定資産処分損の第2四半期での追加発生（888百万円）などの影響もあり、1,007百万円の減益

事業の概要：輸送事業も増収・増益

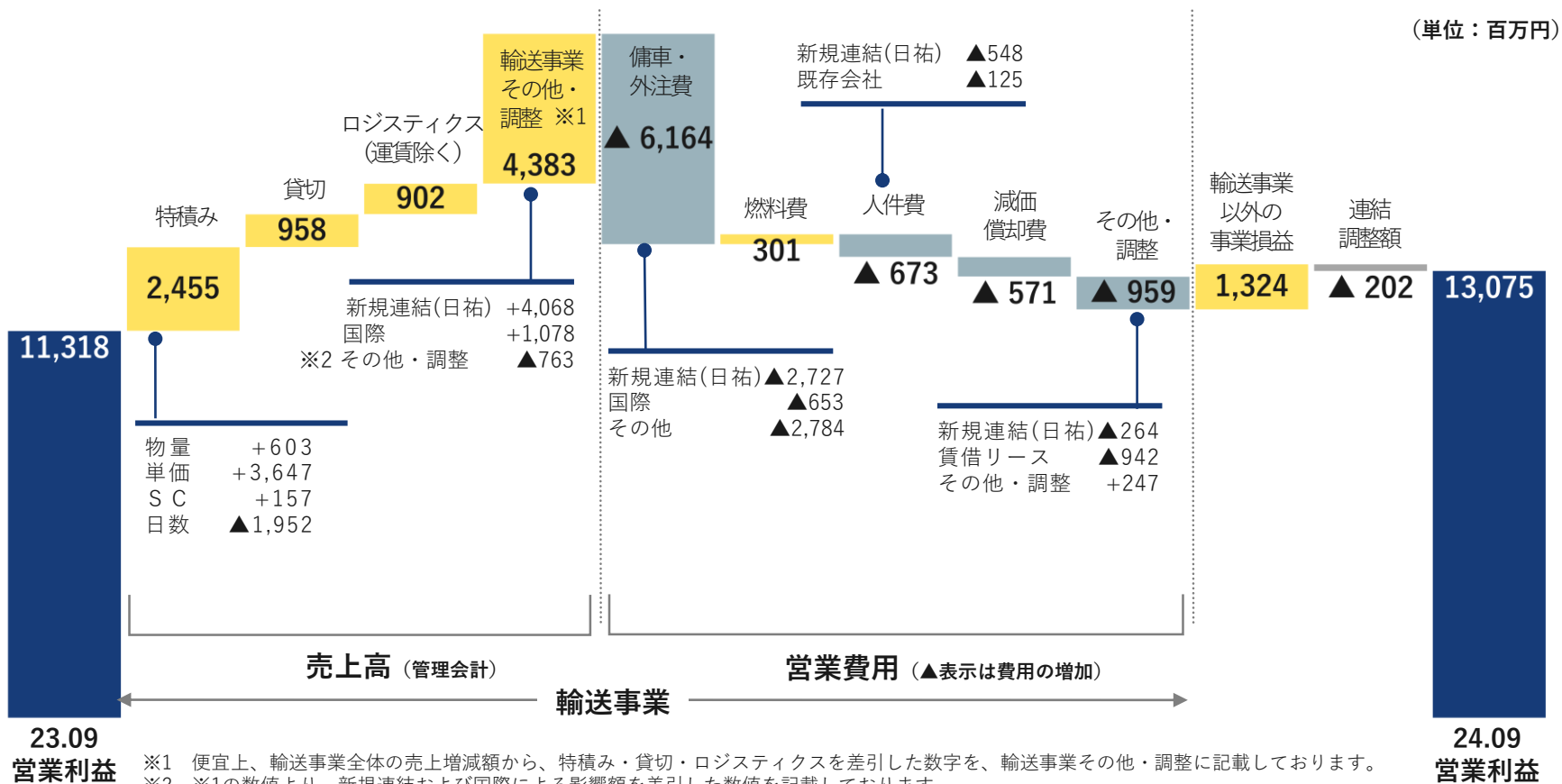


| 単位:百万円 | 売上高 (前年同期比) 【計画比】 | 営業利益 (前年同期比) 【計画比】 | 24.9 事業概況 | KPI |
|---------|--------------------------------|-------------------------------|---|--|
| 輸送事業 | 240,843 (+3.7%) 【+2.9%】 | 7,306 (+9.5%) 【▲6.3%】 | 売上高 特積みでの適正運賃収受の進展による単価上昇や、長距離・高重量帯の強みを活かした施策による物量の伸長に加え新規連結の効果もあり増収 | 特積 前年同期比 物量 101.0% (西濃運輸：一般+ミニ) (グループ：100.4%) kg単価 103.2% (西濃運輸：一般) (グループ：103.0%) |
| | | | 営業利益 外注費増加等の費用増加はあったものの、適正運賃収受の推進による単価上昇や物量の伸長により増益 (計画比では、外注費増加の影響などもあり減益) | ロジスティクス 前年同期比 売上 104.6% (発送運賃除く) 貸切 前年同期比 売上 103.8% (西濃運輸 106.4%) |
| 自動車販売事業 | 58,732 (+11.8%) 【+15.2%】 | 4,438 (+32.4%) 【+53.1%】 | 売上高 乗用車販売は、新車販売台数は減少したものの、高価格帯の新型車種の販売が好調であったことに加え、中古車流通の盛り上がりやトラック販売台数の増加もあり増収 | 新車販売台数 前年同期比 乗用車 8,659台 (93.4%) トラック 1,427台 (118.3%) |
| | | | 営業利益 乗用車新車・中古車販売での粗利率の上昇や、車検・メンテナンスなどの利益の増加により増益 | |
| 物品販売事業 | 18,180 (+5.4%) 【+5.1%】 | 556 (+21.3%) 【+39.0%】 | 燃料価格の上昇に加え、家庭紙販売が好調であったこともあり、増収・増益 | |
| 不動産賃貸事業 | 1,157 (+4.1%) 【+2.4%】 | 846 (+3.6%) 【+3.2%】 | 新規賃貸物件（旧浅草支店）の増加などもあり、増収・増益 | |
| その他 | 12,689 (+1.9%) 【▲6.5%】 | 917 (+14.3%) 【+1.9%】 | 情報サービスなどの伸長により、増収・増益 | |

連結営業利益の増減要因（前年同期比）



輸送事業は、日数減や備車・外注費等の増加はあったものの、適正運賃収受の進展や新規連結などの効果もあり増益、自動車販売事業などが順調に推移し、連結営業利益も増益



※1 便宜上、輸送事業全体の売上増減額から、特積み・貸切・ロジスティクスを差引した数字を、輸送事業その他・調整に記載しております。
 ※2 ※1の数値より、新規連結および国際による影響額を差引した数値を記載しております。

営業費用



自動車販売事業などでの商品仕入原価の増加や、新規連結を含む外注費の増加などの影響もあり営業費用は増加したものの、売上増加率の範囲内に収まっている

| 単位:百万円 | 23.9 | 24.9 | 前年同期比 | コメント |
|---------------|----------------|----------------|----------------------------|---|
| 人件費 | 107,548 | 108,495 | +947 (+0.9%) | 輸送事業（新規連結） 548百万円 輸送事業（新規連結以外） 125百万円 輸送事業以外の増減 274百万円 |
| 燃料費 | 9,284 | 8,991 | ▲293 (▲3.2%) | 輸送事業での減少 ▲301百万円 輸送事業以外での増加 8百万円 |
| 減価償却費 | 10,440 | 10,913 | 472 (+4.5%) | 車両・運搬具の増加 160百万円 工具器具備品の増加 291百万円 |
| 備車料・取扱手数料・外注費 | 88,584 | 94,749 | +6,164 (+7.0%) | 新規連結による影響額 2,727百万円 国際運送原価の増加 653百万円 新規連結・国際以外での増加 2,784百万円 |
| その他 | 88,333 | 95,379 | +7,045 (+8.0%) | 商品仕入原価の増加 5,656百万円 賃借・リース料の増加 988百万円 |
| 営業費用合計 | 304,192 | 318,528 | +14,336 (+4.7%) | 売上前年増加率：+5.1% |

キャッシュ・フロー



営業CFは増加するも、固定資産取得による支出の増加などによりフリーCFは減少
MDロジス株式取得を前に、運転資金の調達により一時的に現金同等物は増加

| 単位:百万円 | 23.09 | 24.09 | 増減額 | 増減要因 |
|----------------------|---------|---------|---------|---|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 18,522 | 22,771 | 4,249 | 法人税等の支払額の減少 (+4,242) |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | ▲12,646 | ▲23,075 | ▲10,429 | 固定資産取得による支出の増加 (▲10,201) |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | ▲30,307 | 36,532 | 66,839 | 短期借入金の増加 (+47,091) 自己株式取得支出の減少 (+20,471) |
| フリー・キャッシュ・フロー | 5,876 | ▲304 | ▲6,180 | |
| 現金及び現金同等物に係る 換算差額 | 59 | 112 | 53 | |
| 現金及び現金同等物の増減 | ▲24,371 | 36,341 | 60,712 | |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 101,065 | 75,378 | ▲25,687 | |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 76,693 | 111,719 | 35,026 | |

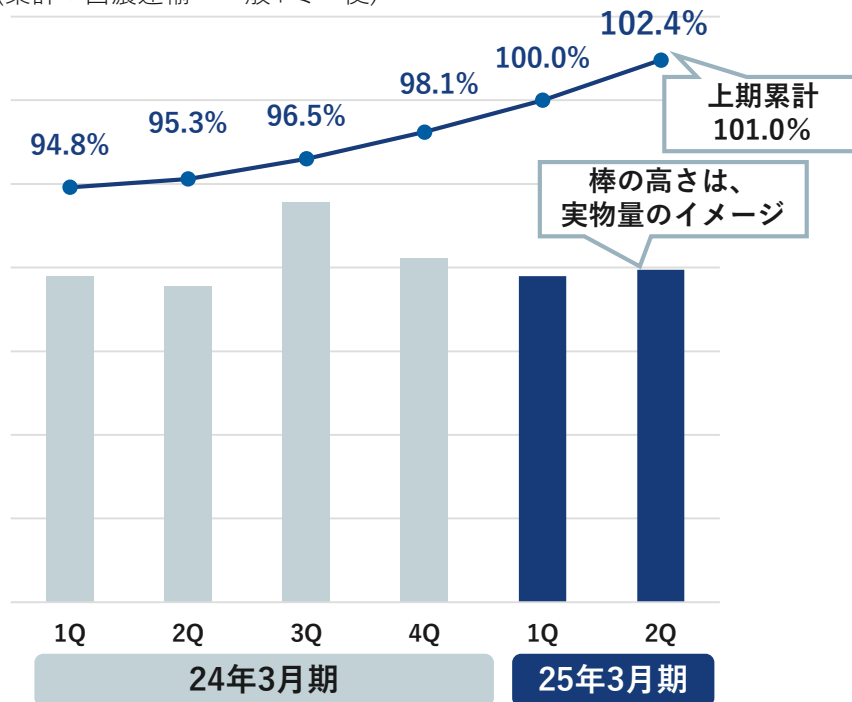


特積み：物量・単価の状況

長距離・高重量帯の強みを活かした
施策により物量は増加

日当たり物量（前年同期比）

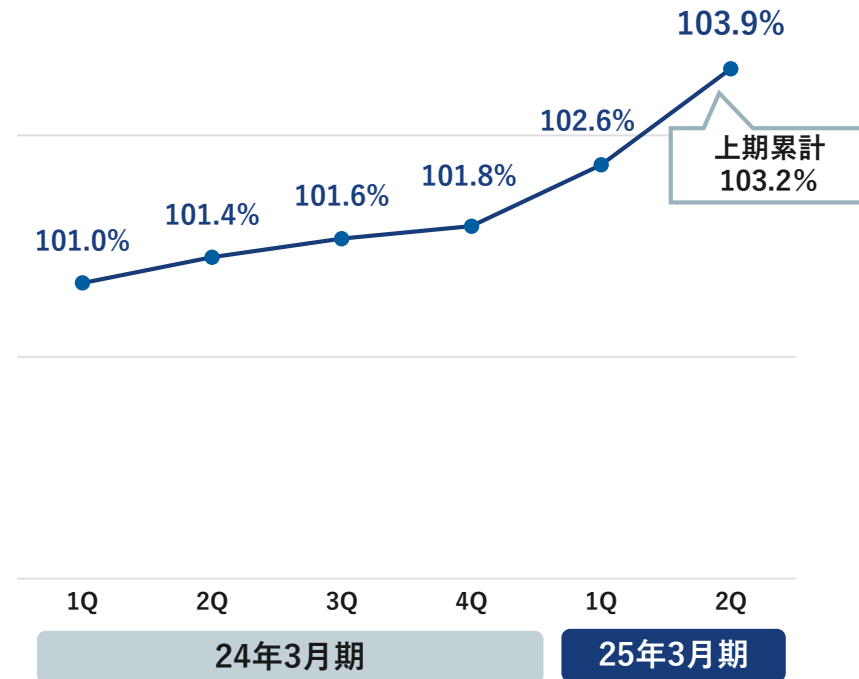
（集計：西濃運輸 一般+ミニ便）



適正運賃収受が進展し、
単価改善幅が拡大

kg単価（前年同期比）

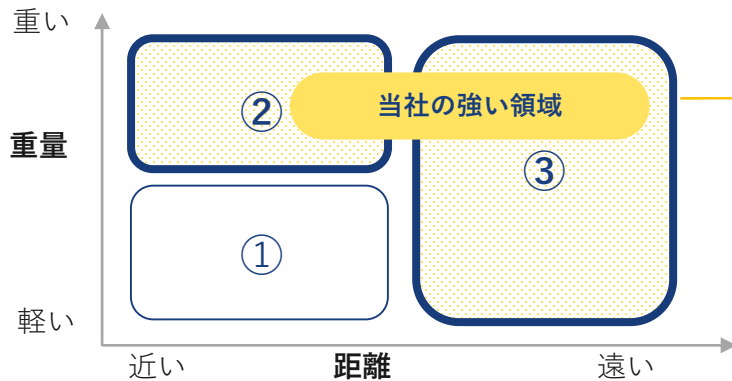
（集計：西濃運輸 一般便）



重量・距離帯別の分析（西濃運輸）



重量・距離帯別領域



(集計：一般+ミニ) (集計：一般)

重量・距離帯別 前年比（上期）

| 重量帯／距離帯 | 日当り物量 | kg単価 |
|----------------------|--------|--------|
| ①300kg以下／ 500km以下 | 99.7% | 102.6% |
| ②300kg超／ 500km以下 | 102.0% | 104.3% |
| ③500km超 | 101.4% | 103.4% |
| 全体 | 101.0% | 103.2% |

物量(上期)

想定 99.4% 実績 101.0% (2Q 102.4%)

- ・ 24年問題に対応したネットワーク、貸切、メガエクス、ハコベルなど多種多様な集配力により、当社の比較優位性である②、③遠方高重量帯中心に物量確保をすることができた。

単価（上期）

想定 102.7% 実績 103.2% (2Q 103.9%)

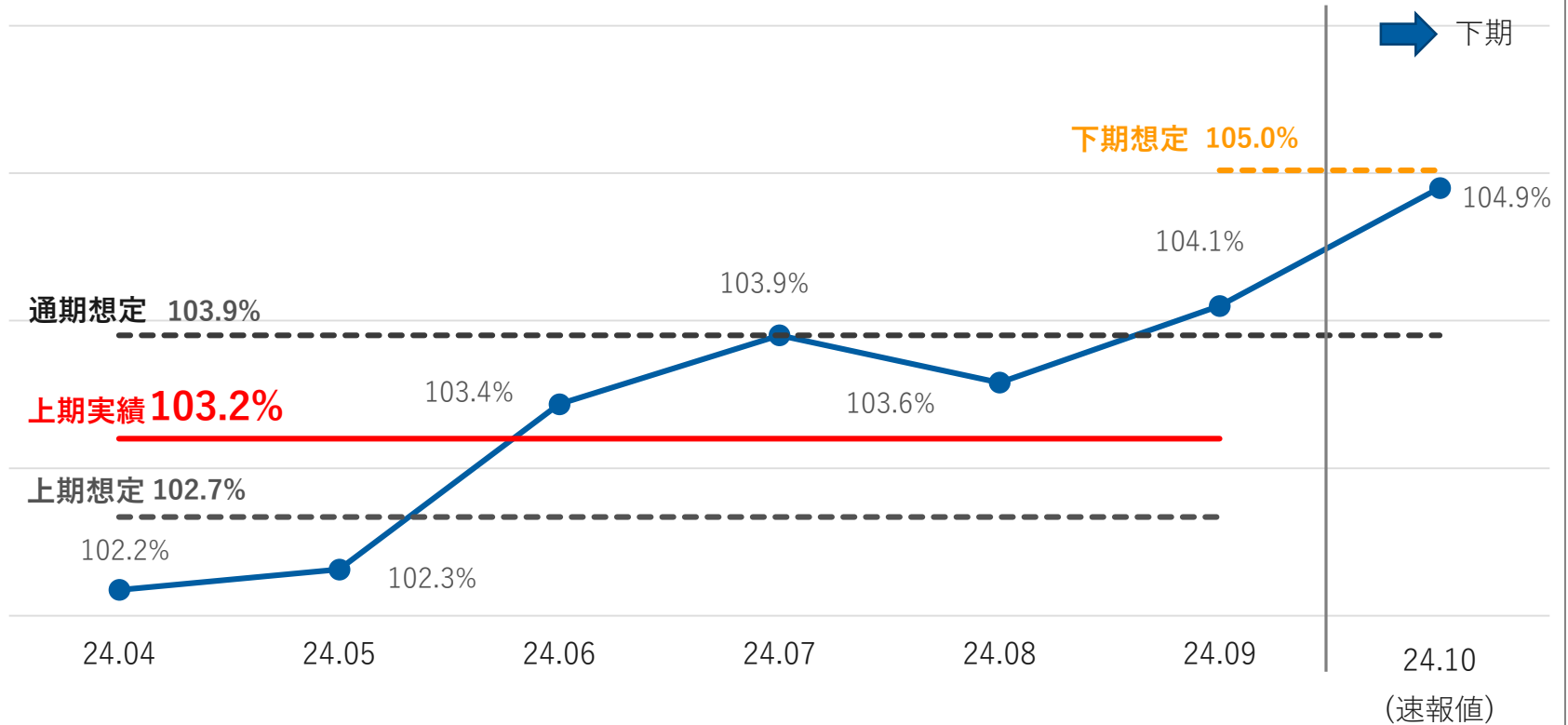
- ・ 営業スタッフによる段階的な交渉により、大手荷主中心の改定政策が寄与
- ・ 改定件数についても昨年の倍で推移
- ・ 当社が得意な②、③の領域での単価上昇が全体に寄与

適正運賃の収受による単価向上（西濃運輸：一般）



Kg単価は9月に104.1%まで上昇し、上期累計は103.2%と想定を0.5pt上回った。
 更に10月には104.9%（速報値）まで上昇し、下期想定105.0%まで0.1ptに迫っている。

Kg単価前年同月比の推移

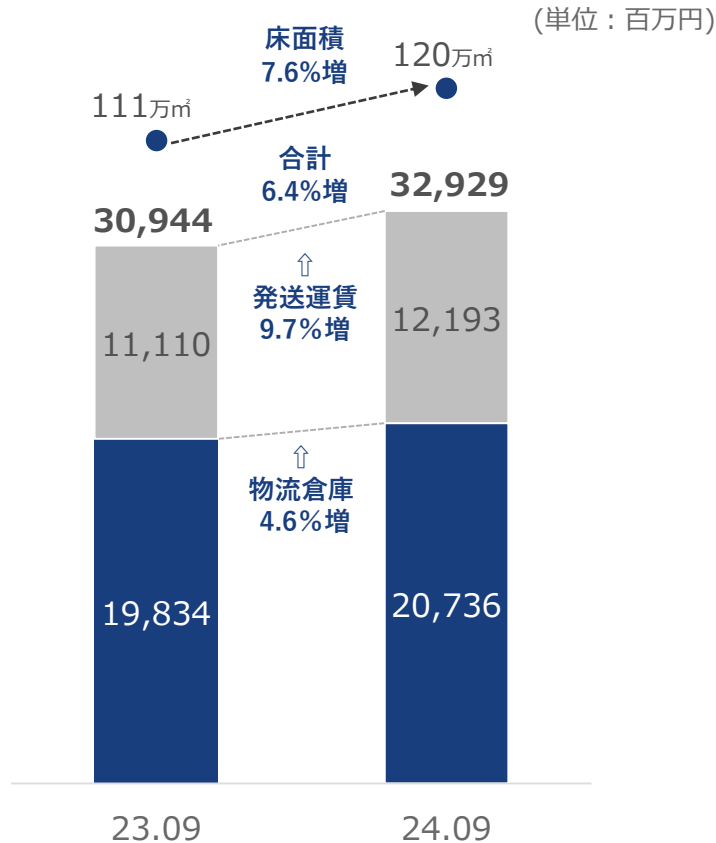


ロジスティクス・貸切事業の状況



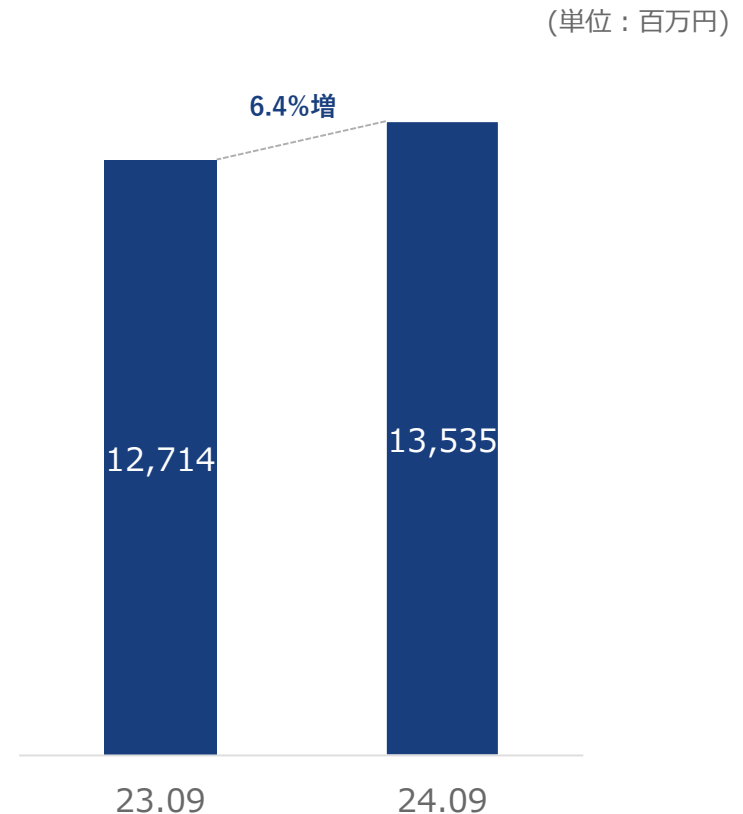
ロジスティクス | 売上高 (管理会計)

上期は、売上・床面積とも増加
下期からMDロジス加わり拡大へ



貸切 | 売上高 (西濃運輸：管理会計)

ハコベル機能の利用拡大もあり、
貸切の売上高は6.4% (日当り7.9%増) の成長



Click!

「想い」を届けるオウンドメディア

セイードライブ
SEINO DRIVE



02

2025年3月期 業績予想

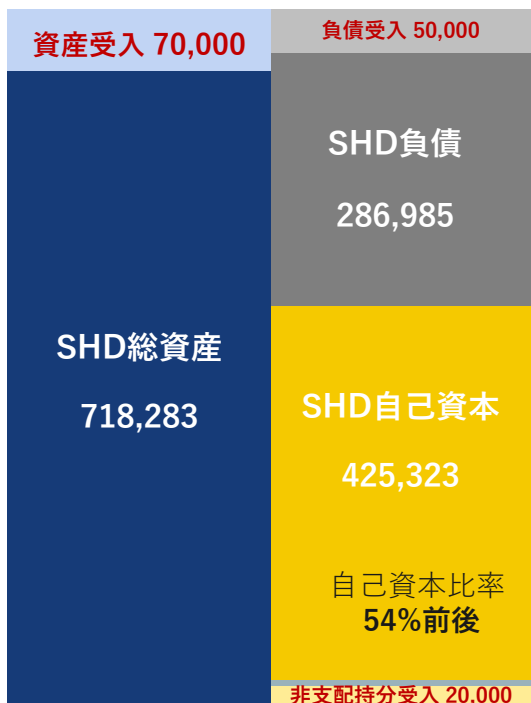
MDロジス 連結影響額



MDロジスの株式66.6%を39,560百万円(事前配当による価額調整後)で取得

不動産の時価評価を加えて、のれんを処理する予定
建物時価評価差額により、償却残余期間に渡り減価償却費が増加

10/1 BS結合イメージ



SHD非支配持分等
5,927

総資産
788,283

負債・純資産合計
788,283

下期 P/L影響額【概算】(下期予想)

(単位：百万円)

<MDロジスグループ>

- ・ 売上高 58,000
- ・ 営業利益 2,382

(セパレーション費用【概算】※ ▲476含む) } 連結営業利益影響額
+1,342
(+1,982) 輸送事業

<連結での調整額>

- 営業利益 ▲1,040
- (減価償却費) (▲400)
- (取得関連費用 ※) (▲640)

⇒調整額へ

[※：一過性の費用 (計 1,116)]

- ・ 特別利益 +1,000
(のれん処理【概算】) (+1,000)

- ・ 親会社株主に帰属する
四半期純利益 +1,345
(四半期純利益) (1,840)
(非支配株主持分損益) (▲494)

通期業績予想

MDロジスのグループINにより通期予想を修正



(単位：百万円)

| | 25.03 (今回修正) | 25.03 (5/14発表時) | 増減額 | 増減率 | 24.03 (実績) | 増減額 (前年) | 増減率 (前年) | コメント (修正差分) |
|-------------------|-----------------|--------------------|---------|--------|---------------|-------------|-------------|---|
| 売上高 | 731,304 | 658,700 | +72,604 | +11.0% | 642,811 | +88,492 | +13.8% | <売上高> (輸送事業) |
| 輸送事業 | 550,743 | 485,900 | +64,843 | +13.3% | 470,237 | +80,505 | +17.1% | MDロジス +58,000 上期増減額 +6,843 |
| 自動車販売事業 | 113,732 | 106,000 | +7,732 | +7.3% | 108,663 | +5,069 | +4.7% | (輸送以外の事業) 上期増減額 +7,761 |
| 物品販売事業 | 36,980 | 36,100 | +880 | +2.4% | 35,747 | +1,233 | +3.5% | |
| 不動産賃貸事業 | 2,277 | 2,250 | +27 | +1.2% | 2,246 | +31 | +1.4% | <営業利益> (輸送事業) |
| その他 | 27,569 | 28,450 | ▲880 | ▲3.1% | 25,917 | +1,652 | +6.4% | MDロジス +1,982 (自動車販売) +1,038 (輸送・自動車販売以外の事業) |
| 営業利益 | 33,175 | 30,900 | +2,275 | +7.4% | 23,403 | +9,771 | +41.8% | 上期増減額 +200 (調整額) |
| 輸送事業 | 24,882 | 22,900 | +1,982 | +8.7% | 15,273 | +9,608 | +62.9% | 株式取得関連費用 ▲640 上期増減額を含む修正▲306 |
| 自動車販売事業 | 6,538 | 5,500 | +1,038 | +18.9% | 5,808 | +730 | +12.6% | <経常利益> |
| 物品販売事業 | 1,156 | 1,000 | +156 | +15.6% | 948 | +207 | +21.9% | 営業利益修正差額 +2,275 MDロジス営業外 +147 |
| 不動産賃貸事業 | 1,676 | 1,650 | +26 | +1.6% | 1,648 | +28 | +1.7% | 持分法投資損益 ▲1,360 その他の増減 +477 |
| その他 | 1,617 | 1,600 | +17 | +1.1% | 1,394 | +222 | +16.0% | <特別損益> |
| 調整額 | ▲2,696 | ▲1,750 | ▲946 | - | ▲1,670 | ▲1,025 | - | 固定資産除却他 ▲1,000 負ののれん償却 +1,000 |
| 経常利益 | 33,939 | 32,400 | +1,539 | +4.8% | 24,496 | +9,442 | +38.5% | EPS 117.08円 (+1.81円) |
| 親会社に帰属する 当期純利益 | 19,707 | 19,400 | +307 | +1.6% | 14,561 | +5,145 | +35.3% | ROE 4.6% (+0.1pt) |

03

MDロジスのグループINによる 価値創造への道すじ



当社が目指すもの ～Team Green Logisticsを加速～



ロードマップ2028 スローガン

企業や業界の垣根を超えた 「共創」による 持続可能な社会の実現

「Team Green Logistics」

～ 共に創り 未来に貢献する ～



日本が直面している少子高齢化や環境問題などの社会課題に対し、持続可能な物流ネットワークの最適化が必要である

我々は、オープン・パブリック・プラットフォームの概念のもと、サプライチェーン全体において環境配慮を促すため、顧客ならびに様々なパートナーとの連携を強化し、チーム一丸となって「Green物流」を共創していく

だからこそ、従業員ひとりひとりが企業理念に則り、互いを尊重し、お客様から選ばれる「物流を超えた」企業となるべく、「心をつなぐ」ことで未来に貢献する

- お客様に成り代わるロジスティクスサービスの提供
- オープン・パブリック・プラットフォーム（O.P.P.）※の拡大による輸送効率の向上
- デジタルプラットフォームを活用した貸切拡大など、自社の物理的限界に左右されないサービス提供
- CVC投資など生産性向上（省人化・効率化）につながる新しいイノベーション

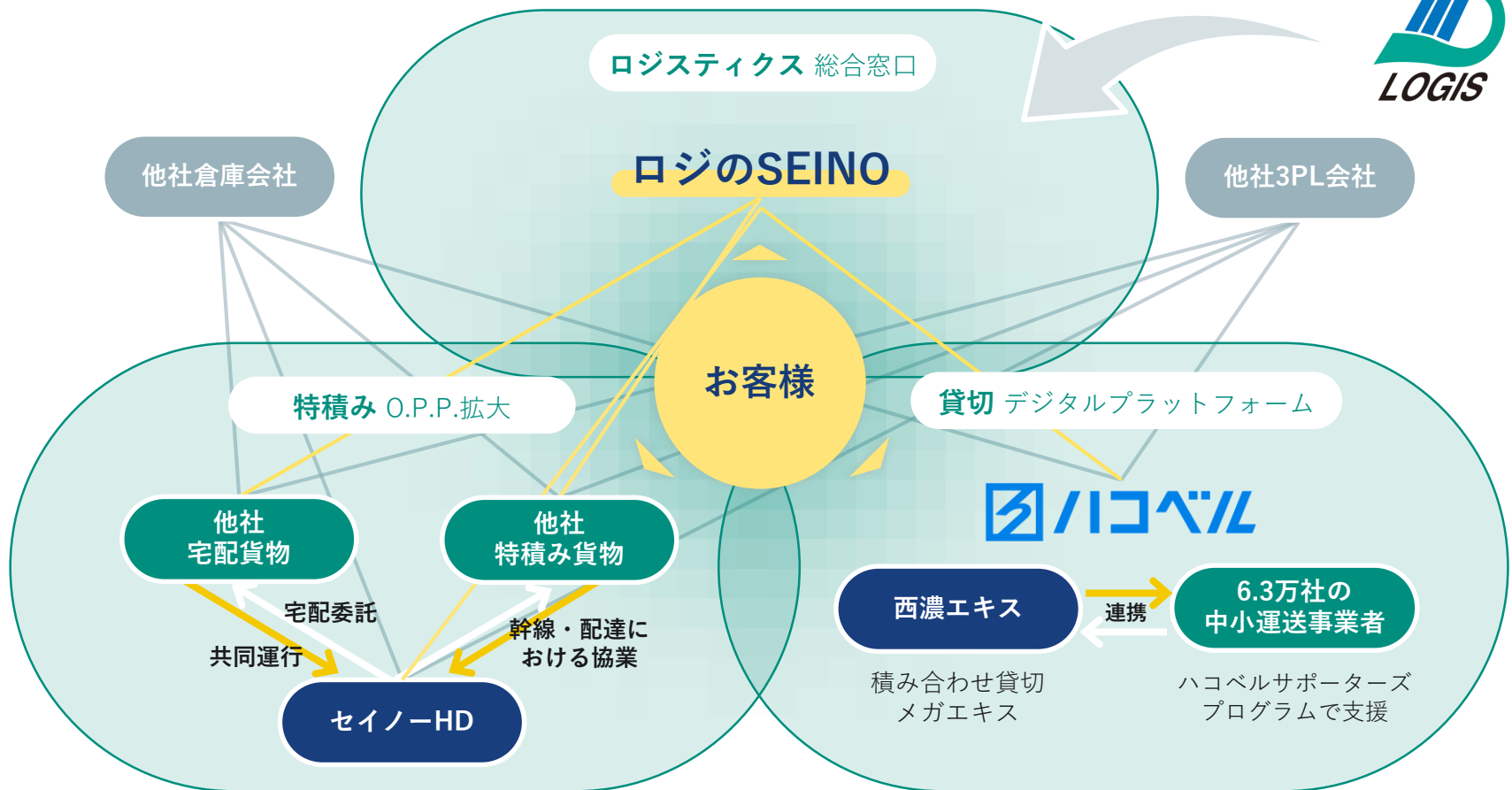
※オープン・パブリック・プラットフォーム（O.P.P.）

社内外、業種の違い等を問わず連携した（オープン）、誰もが使える（パブリック）、物流プラットフォームを構築し、プラットフォーム利用者それぞれの効率化や価値向上、さらには社会インフラとして産業・環境・生活への貢献を実現する構想

当社が目指す Team Green Logisticsの全体像



ロジスティクス・貸切・特積みの3つの領域を中心に他社連携を強化し、
物流の川上から川下、すべての領域においてお客様の繁栄に貢献

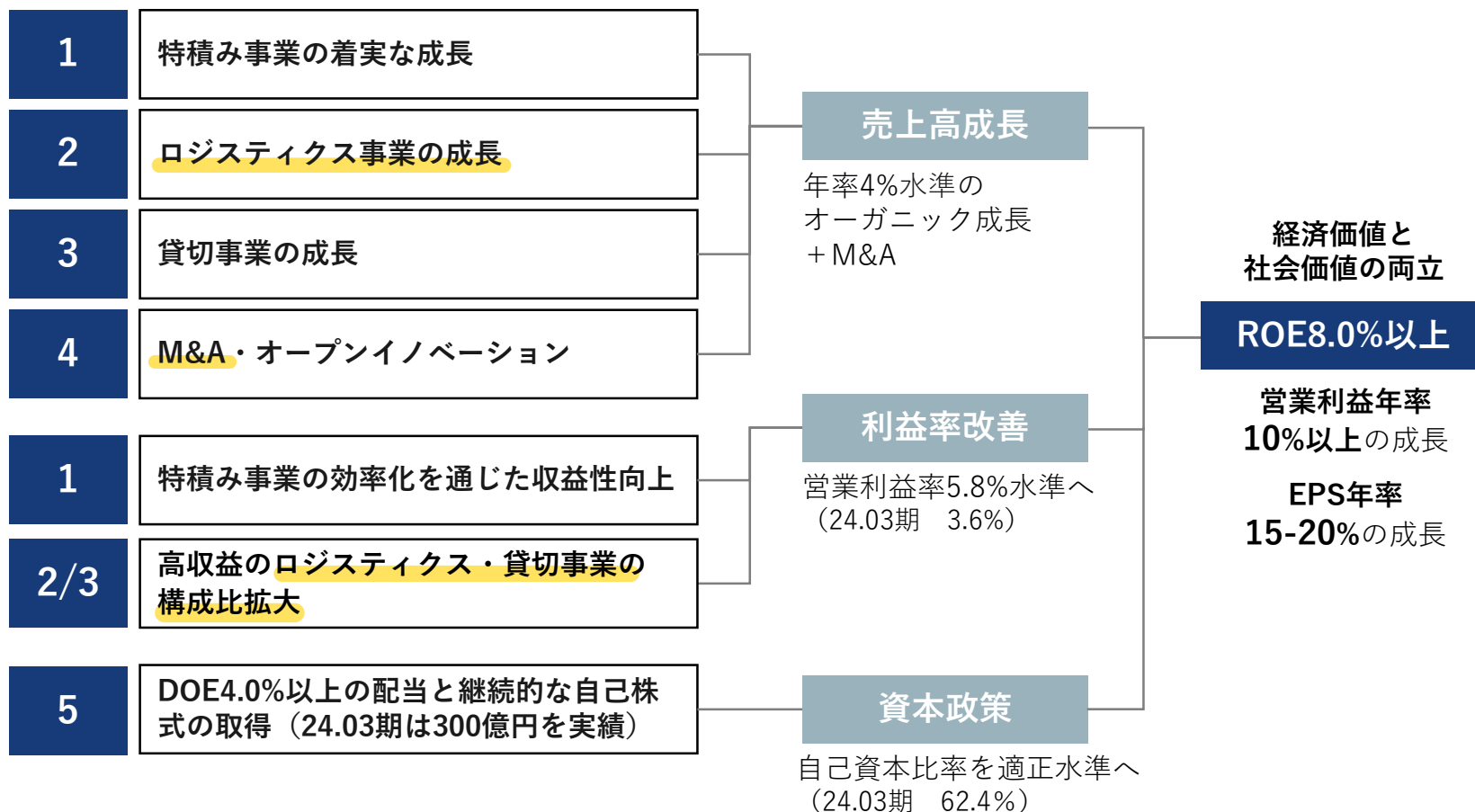


MDロジスにより成長ドライバーの加速へ 企業価値向上の道すじ



MDロジスのグループINにより、海外展開や専門性の高い物流拡大など
ロジスティクス事業の成長ドライバーを加速させる

ROE改善のドライバー



「MDロジス」として 新たにスタート



24年10月より社名（商号）を三菱電機ロジスティクス株式会社から
**MDロジス株式会社へ変更し、当社グループの
新たなメンバーとしてスタート。**



三菱電機様製品の物流を担ってきた強みと

従業員の誇りを大切にしたい思いから「MDロジス」と変更。

これまで以上にお客様のサプライチェーン最適化に貢献していきます。

MDロジスの強み



大型機器・設備等の特殊輸送、半導体や精密機械の輸送に関するノウハウなど
三菱電機グループで培った専門性の高いロジスティクス技術が強み



高度かつ特殊な 物流業務

- 輸送計画から搬入、設置までの高度で特殊な物流業務

幅広い製品の 物流管理

- 半導体から防衛・宇宙まで幅広い製品の商流、物流特性、物流形態を熟知した物流管理

梱包の最適化

- 多様な製品の梱包設計から梱包の最適化するノウハウ
- ISTAの認定試験所による包装貨物評価試験の実施

一貫物流の 対応力

- 調達物流、生産物流、販売物流、国際物流、静脈物流(リサイクル)までの一貫物流に対応

コスト競争力

- 空調・家電、FA機器を中心とした立地条件のよい全国自社倉庫と配送ネットワーク網によるコストの低減

包括契約によりグループ全体で連携



物流関連サービスの取引における中長期的なパートナーとして
相互に協力すべく親会社にて包括契約を締結



当社グループの機能を最大限活用し、O.P.P. 目線で
三菱電機グループ様全体の物流最適化をコントラクトロジとして提供していく

よりグループ全体の企業価値向上へ 繋げるための新経営体制



MDロジス・セイノーグループ・三菱電機グループの連携が強化できるように体制を新たに構築。
特にエレクトロニクス領域のみならず、国際領域のシナジー創出に向けた経営体制に。

MDロジス
経営体制

<注力領域>

エレクトロニクス領域・国際展開・人材強化

連携強化



取締役社長
四方 壽一

取締役副社長
日比野 利夫

取締役 兼 執行役員
渡部 工次郎

取締役（非常勤）
野津 信行

取締役（非常勤）
土本 寛

旧)三菱電機ロジ
スティクス
取締役社長

前)セイノーHD執行役員
エレクトロニクス・
ソリューション事業部
担当兼西濃運輸
副社長執行役員

セイノーHD
事業推進部
輸送事業国際
担当参与

セイノーHD取締役
財務IR部担当、経理、
コーポレート推進、
人事担当

三菱電機
上席執行役員
監査担当、
経営企画統括部長

代表取締役

取締役

執行役員
13名

旧)三菱電機ロジスティクス 取締役と中心とした執行体制

MDロジスの目指すべき方向性



1

荷主と一体となったサプライチェーンの課題解決

- 輸配送の効率化、積載の効率化、梱包の効率化、サプライチェーン全体の効率化（需要予測・適切な生産計画・在庫の最適化）

2

既存の物流業務の継続的な改善と新規分野の拡大を通じた事業競争力の強化

- 生産性向上による物流のQCDS※の継続的な改善
- 新たな成長分野に向けた競争力強化
- ネットワーク化による安定的な輸配送業者の確保

3

事業競争力を支える経営基盤の強化

- 健康で働き甲斐のある職場の実現、環境に優しい物流会社への挑戦、安全・安心な職場環境作り・BCP体制の構築、安定したガバナンス体制の整備

※QCDSとは、製品やサービスの品質を向上させるための、クオリティ・コスト・デリバリー・サービスの4つ要素

MDロジスの中長期戦略



1.

成長事業・ 海外事業の 拡大

- 三菱電機様の空冷事業やFA事業における欧米インドでの取引拡大と収益向上
- 防衛・宇宙・インフラ事業物流拡大
- 半導体製造装置の搬入・据え置き等の高付加価値の半導体関連物流事業の拡大
- 調達物流やシナジーのある外販の拡大・効率的な集荷と倉庫保管・JIT納入の実現

2.

事業競争力 強化

- セイノー情報サービスと連携したシステム化の加速によるサプライチェーンの最適化とハコベルの先端技術を活用した業務効率化等のDX化推進による生産性の向上
- 倉庫の省人化・自動化等投資による効率の最大化
- セイノーグループとの連携による共同配送等輸送能力向上・効率化、荷役調達力の強化

3.

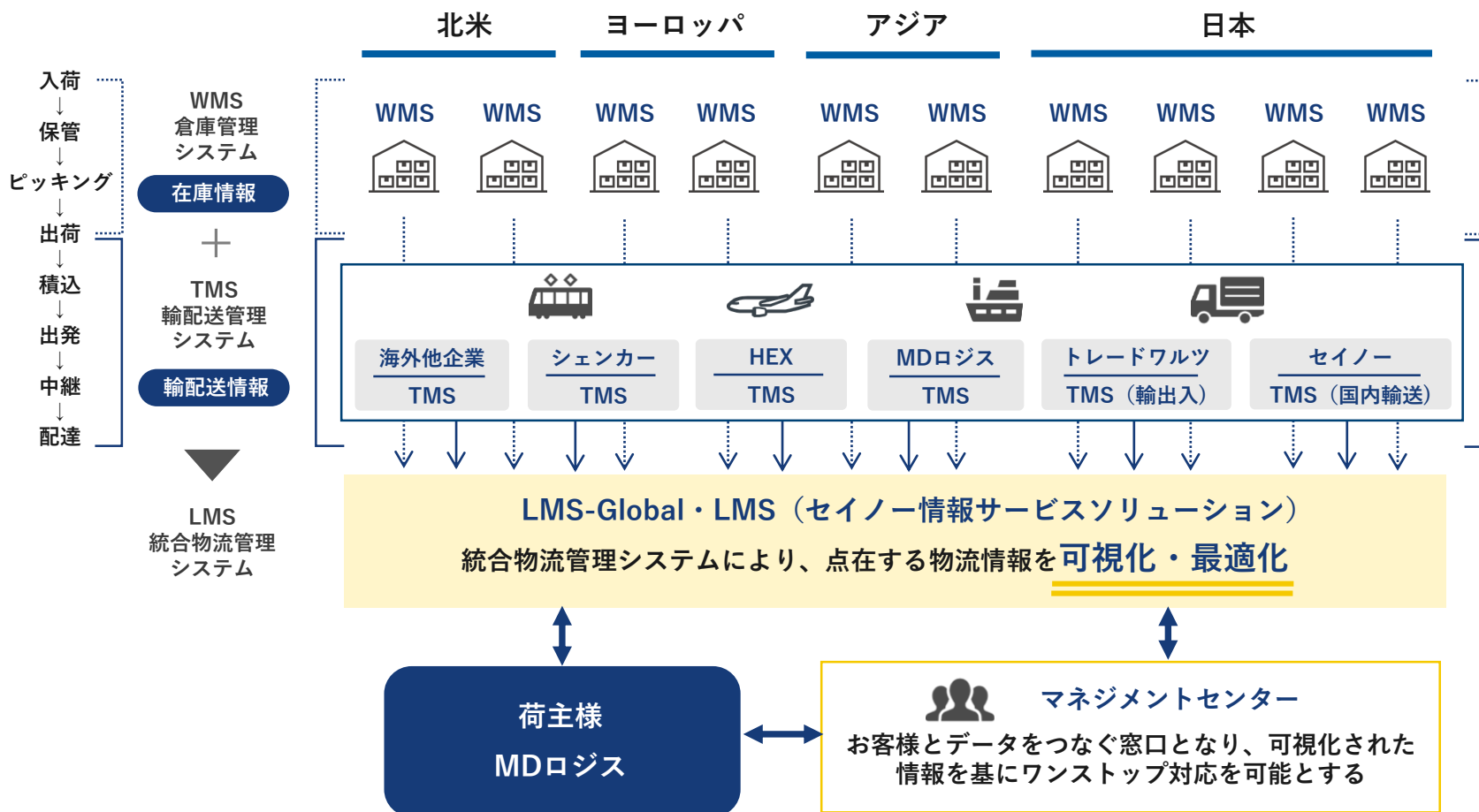
人材育成

- 資格の奨励や働き甲斐のある職場づくりなどによる人材の確保・育成戦略強化

中長期戦略に基づく システム活用の方向性



大規模物流管理に適しているセイノー情報サービスの物流システムを活用し、データ連携することで構築コストを減らしSCM全体の情報および物流の最適化を行う



MDロジス成長のための 今後の検討事項について



課題や想定されるシナジーを、レイヤーごとに具体的な検討を進めている

| | 経営層 | 執行層 | 現場・管理層 |
|----------|--|--|--|
| グローバル展開 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 顧客のサプライチェーン全体の可視化によるPSI最適化の実現 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 未進出エリアでの新規事業展開 ✓ 海外現地法人を主体とした事業拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ DBシェンカー・HEXとの連携 ✓ DX化・情報システム構築推進 |
| 事業シナジー | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アセット・ノウハウの相互の最大活用による顧客提供価値の差別化 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 各事業のシナジー推進 ✓ 営業部門の連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存事業とのシナジーのある外販事業の拡大 ✓ 調達物流事業の拡大 ✓ 包装技術の外販展開 |
| コスト・無形資産 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ CRE戦略導入や共同輸配送・集中購買等によるオペレーションコスト低減 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 物流戦略の立案・推進 ✓ 現場間の意識改革 ✓ 改善力・コンサルティング力の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 輸配送ネットワーク・拠点の共同利用による効率化 ✓ 資材等の共同購入によるコスト削減 ✓ 経理財務の連携 ✓ 相互人事交流による人材育成・強化 |

SEINO O.P.P. INNOVATION PROGRAM



04

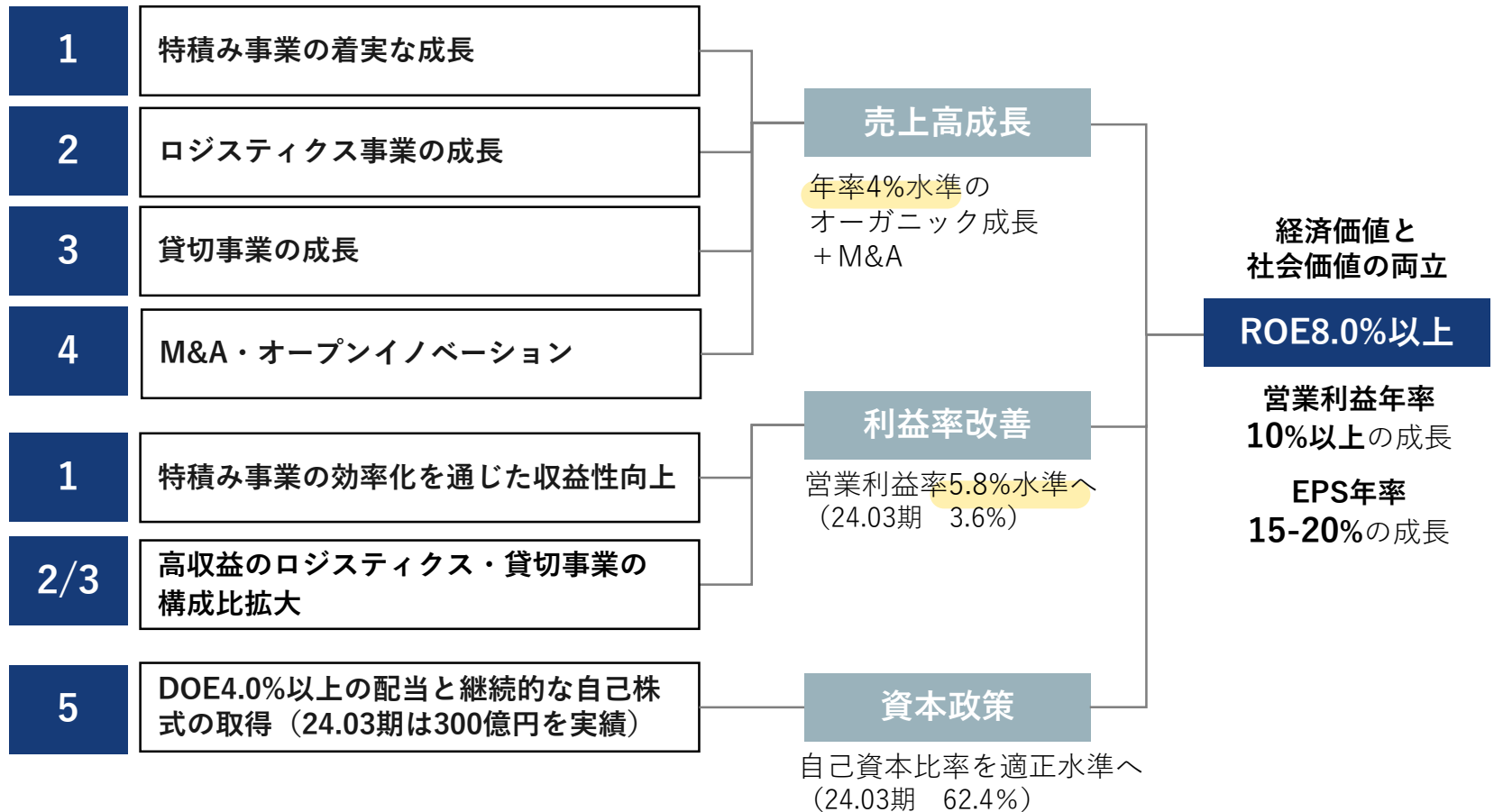
企業価値向上の取り組み

企業価値向上の道すじ



稼ぐ力の向上、積極的な株主還元で、3-5年以内にROE8.0%達成を目指す

ROE改善のドライバー



セイノーグループの倉庫業務の付加価値向上 ・アセット効率化に向けて



現状



自社倉庫以外の
外部寄託倉庫



課題：非効率な運用

集約



所有施設



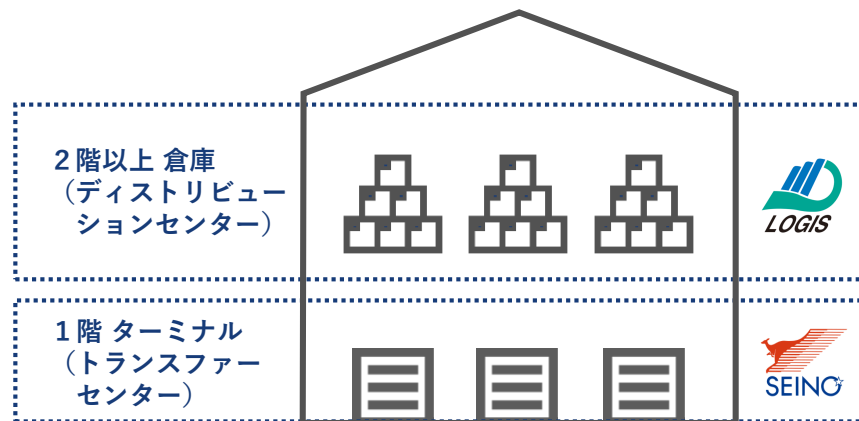
課題：施設の老朽化・
低利益拠点の改善

更新

将来構想案

ロジ・トランス※機能の実現による生産性向上

- ・倉庫集約・機能集約による、庫内作業や倉庫間輸送等の効率化
- ・自社老朽化施設更新(最新鋭化)による効率化



ロジ・トランスへ

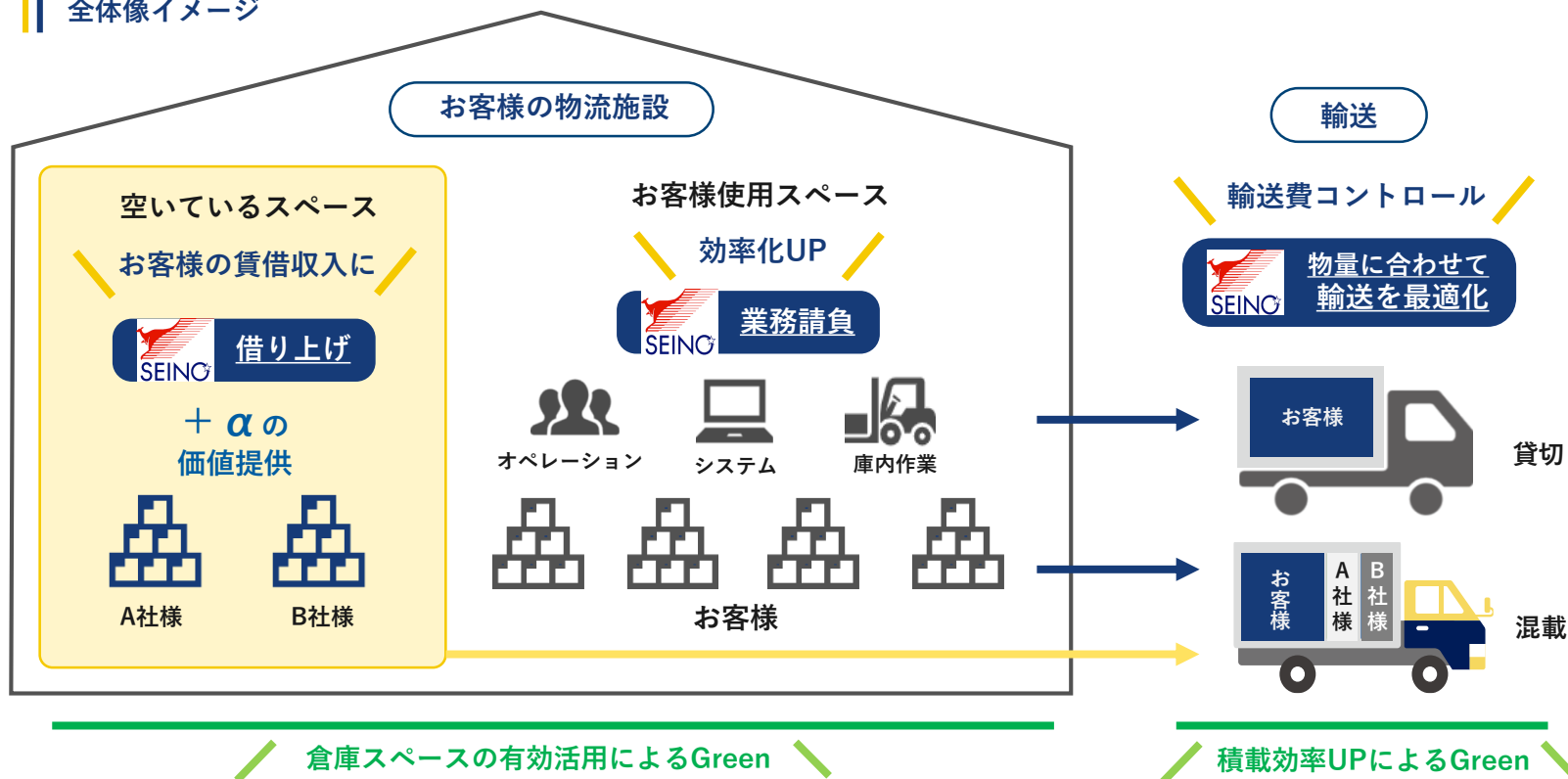
※ロジ・トランスとは、「ロジスティクス(物流) + トランスポーテーション(輸送)」に由来した造語で、
調達から倉庫保管、全国への配送まで同一施設内でワンストップに提供できる機能を意味する

物流効率化に向けて 新たなパートナーシップの形



お客様の物流施設での業務を一括受託し、保管から輸配送までのロジスティクスサービス及び空きスペース活用をワンストップで提供するという、新たな形をお客様と共創することにより物流課題解決とGreenに貢献

全体像イメージ



ハコベルが新たに バス予約事業を承継

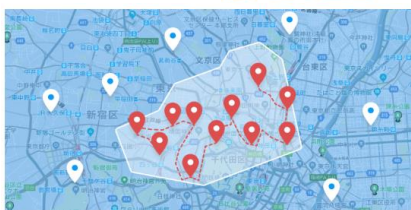


物流プラットフォームのハコベルが、モノフル運営のトラック受付/予約サービス「トラック簿」の事業を2024年11月承継。

物流DXシステム「配車管理」「配車計画」「動態管理」に加えて「トラック簿」をラインナップに追加



配車管理



配車計画



動態管理

追加

ハコベルがトラック予約受付システム事業を承継

「トラック簿」

さらなる成長へ

monoful × ハコベル

「トラック簿」はトラック受付/予約サービスで28万人以上のトラックドライバー様が利用する

2年連続成長率No.1※のバス管理のSaaSプロダクト。

各社ごとの規定に合わせてやすい汎用性と機能性を併せ持つと同時に、直感的に操作できる使いやすさを実現し、700以上の拠点で導入されている。

AIを活用した 将来の配送効率化



西濃運輸は 24年9月から、株式会社オプティマインド（CVC投資先）と一部店舗で配送ルート作成における自動化の実証実験を開始。
約20%の配達時間削減を目指す



輸送効率上昇による
CS向上

ドライバーの
ES向上

- 配達時間短縮・CO2削減
- 属人的な運用の解消
- 配送ルート作成の効率化
- 積み込みの効率化・出発時間短縮
- ドライバー負荷均等化
- ドライバーの勤務時間短縮



誰でも最適で高精度な配車計画・配送ルートを作成できる**自動配車クラウド**。国内最高峰の最適化アルゴリズムと車両の実走行データをAIで解析することで**高精度な配車計画を作成することが可能**

レベル4 自動運転トラック幹線物流輸送実現に向けた公道実証を開始

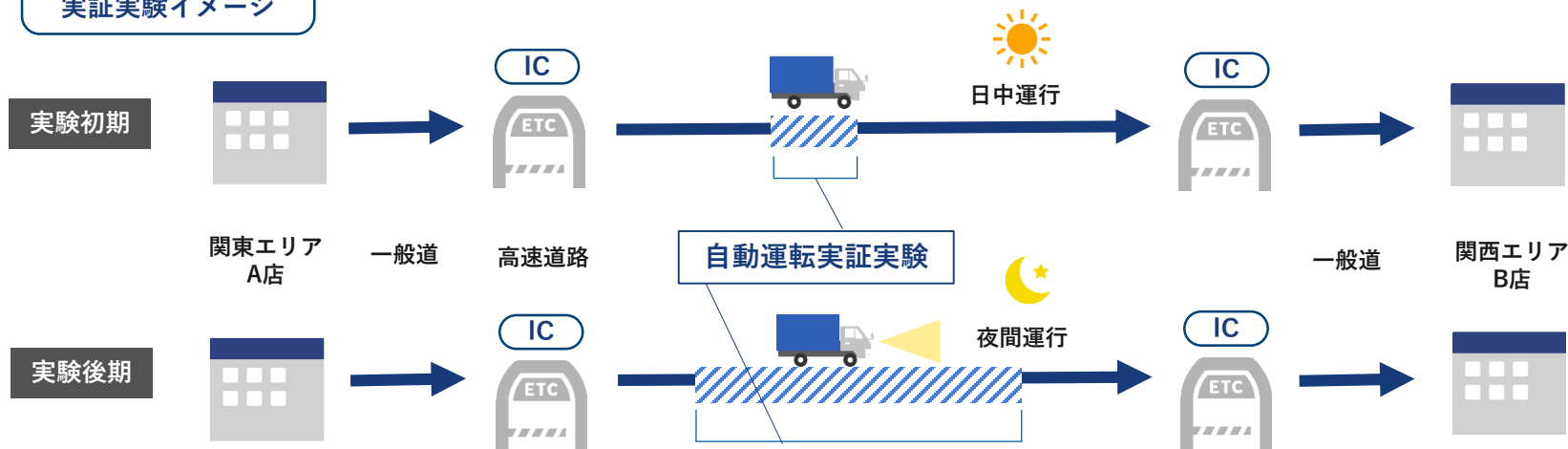


株式会社T2（CVC投資先）、佐川急便株式会社、当社にて、2024年10月から自動運転トラックを用いた幹線輸送の実証実験を開始

また2024年11月に設立された「自動運転トラック輸送実現会議～L4 Truck Operation Conference～」に参画することで、より多くのパートナーとの共創による自動運転の早期実現を目指していきます



実証実験イメージ



レベル4 自動運転：特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態

物流業界の課題解決のため 新たにLP出資



2024年問題・事業承継などの課題解決に向け
50億円規模の“JAPAN LOGITRANSPORT FUND”にアンカーLPとして出資



日本物流ファンド

JAPAN LOGITRANSPORT FUND

物流業界の機能向上に寄与する企業との事業シナジーを創出

2024年問題
事業承継問題等
物流業界の
課題解決に貢献

セイノーHDの
投資機能、及び
PMI機能の強化

物流の2024年問題で顕在化した「モノが運べなくなる」可能性について、
関連企業との共創により、課題の解決を推し進める

スタートアップの価値向上のため パートナーを拡大



当社が参画する「Value Chain Innovation Fund（以下”VIF”）」に
福山通運株式会社もLPとして参画決定

特積み業界の大手プレイヤーの参画によって
連携の幅が広がりイノベーションを加速

新たに参画決定

LP



パートナー企業
株式会社日本政策投資銀行 等

出資



お客様のバリューチェーン



VIF における投資領域のイメージ



連携

物流業界全体の
課題解決加速

&

お客様の抱える
バリューチェーン
の課題解決

セイノー
ホールディングス



西濃運輸

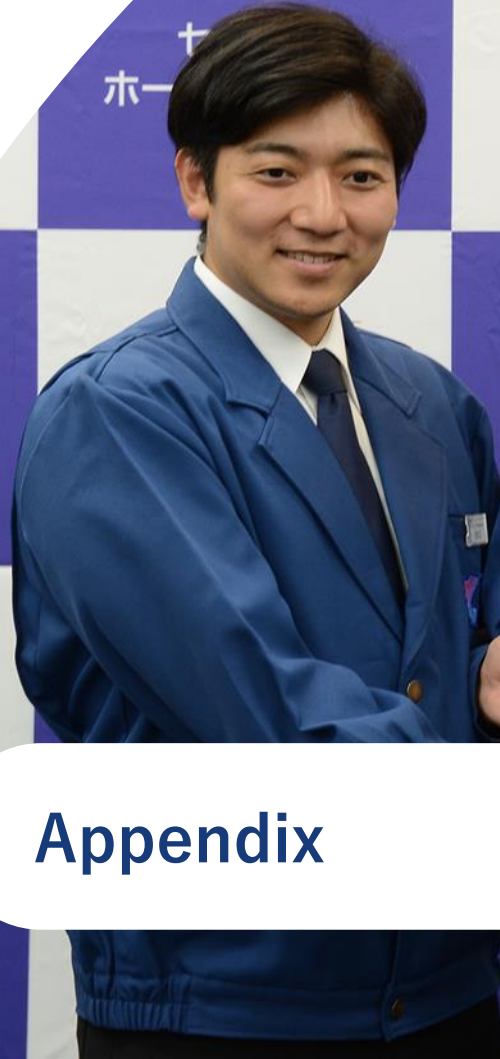
十
ホー



西濃運輸



ー
ンクス



Appendix

西濃運輸野球部
吉田聖弥投手（写真中央）
中日からドラフト2位指名

バランスシートの状況



運転資金を使用用途として、短期借入金+47,044百万円増加

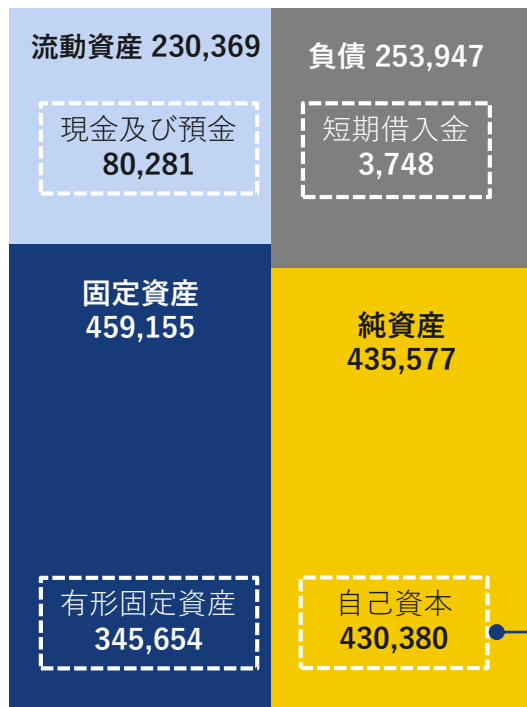
2024年3月末

2024年9月末

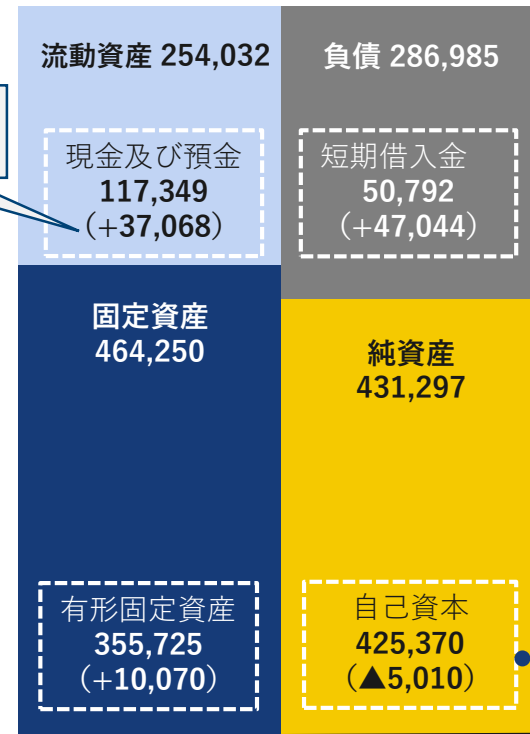
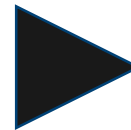
総資産 689,525百万円

総資産 718,283百万円

(単位：百万円)



10/1付でMDロジス
株式取得 39,560



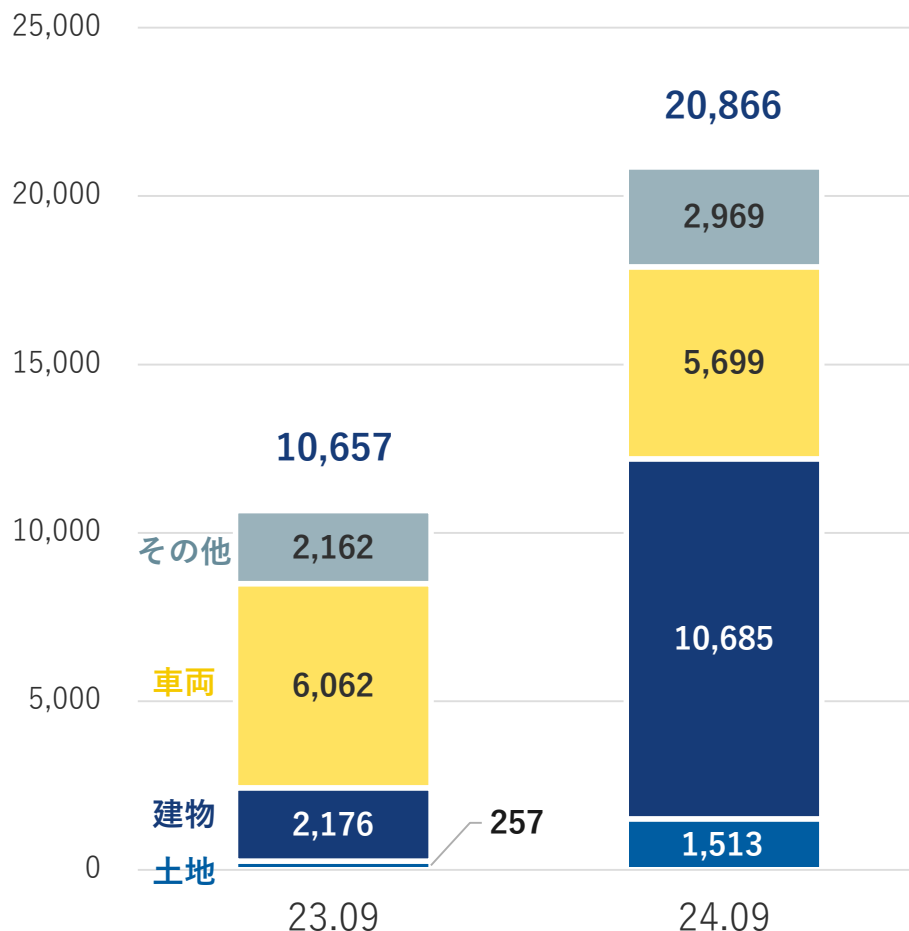
自己資本比率
62.4%

自己資本比率
59.2%
(▲3.2pt)

設備投資： 建物の新築工事が進み設備投資は増加



(単位：百万円)



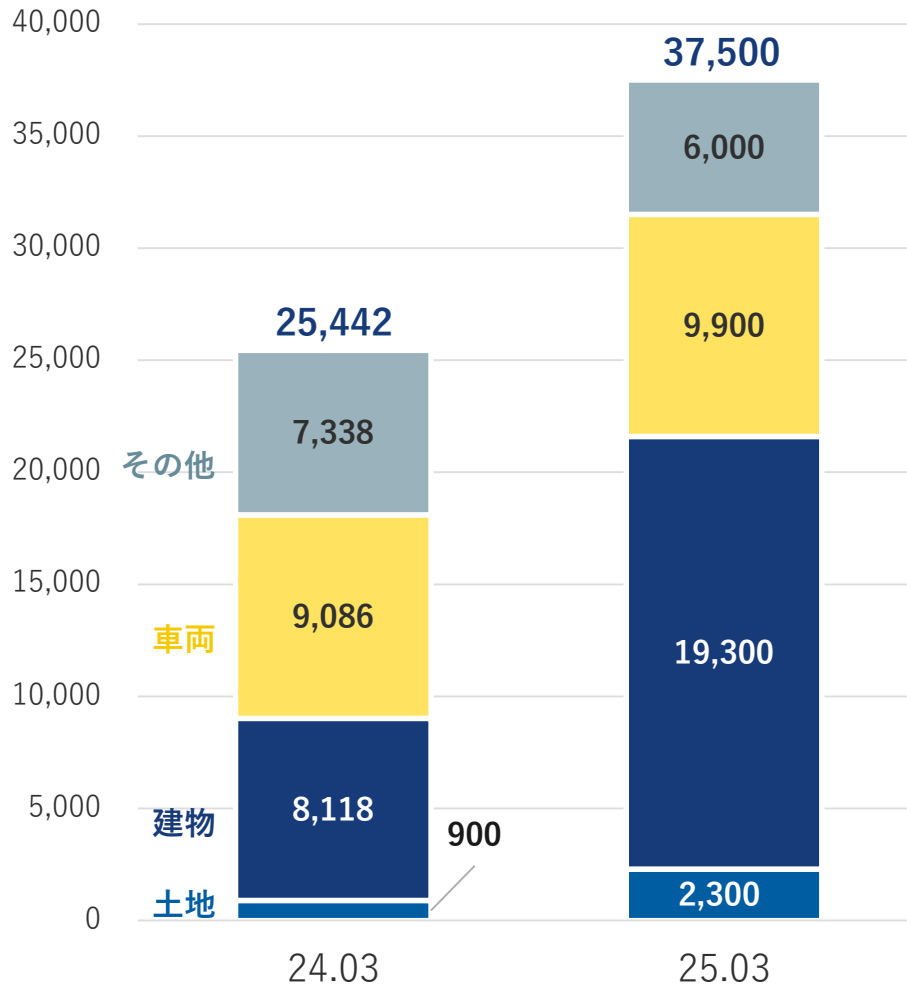
24.09 設備投資の主な内訳

| | | |
|-------------------------|------------------|----------|
| 土地 | 1,513百万円 | |
| ・ 西濃運輸 (愛知県豊明市) | | 1,379百万円 |
| 建物 | 10,685百万円 | |
| ・ 西濃運輸 (市川支店新築工事) | | 5,207百万円 |
| ・ 西濃運輸 (金沢支店金沢倉庫新築工事) | | 1,797百万円 |
| ・ 西濃運輸 (豊川支店倉庫新設工事) | | 590百万円 |
| ・ TCN岐阜※ (配車センター駐車場工事) | | 318百万円 |
| ・ TCN岐阜※ (カローラ高山店改修工事) | | 216百万円 |
| | | ※自動車販売事業 |
| 車両 | 5,699百万円 | |
| ・ 西濃運輸 (642台) | | 4,097百万円 |
| ・ セイノースーパーエクスプレス (110台) | | 342百万円 |
| ・ 北海道西濃 (46台) | | 205百万円 |
| ・ 四国西濃 (19台) | | 154百万円 |
| その他 | 2,969百万円 | |
| ・ 西濃運輸 (省力機器他) | | 983百万円 |
| ・ 西濃運輸 (ソフトウェア) | | 354百万円 |

25.03期 設備投資予想： 建物取得等で30億円を上方修正



(単位：百万円)



25.03下期 設備投資の主な内訳

土地 787百万円

- 西濃運輸 (愛知県豊明市) 50百万円
- サハロジ (タイ: White Warehouse) 530百万円**

建物 8,615百万円

- 西濃運輸 (横浜支店新築工事) 1,837百万円
 - 西濃運輸 (名古屋北支店新築工事) 1,065百万円**
 - サハロジ (タイ: White Warehouse) 1,171百万円**
 - TCN岐阜※ (岐阜店サービス工場改修工事) 520百万円
- ※自動車販売事業

車両 4,201百万円

- 西濃運輸 (518台) 3,542百万円
- 九州西濃 (70台) 192百万円
- セイノースーパーエクスプレス (30台) 167百万円

その他 3,031百万円

- 西濃運輸 (省力機器他) 1,617百万円
- 西濃運輸 (ソフトウェア) 639百万円

※太字表記は、今回追加となった施設

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問合せ先

セイノーホールディングス株式会社

〒503-8501 岐阜県大垣市田口町1番地

TEL : 0584-82-5023 FAX : 0584-82-5043

<http://www.seino.co.jp/seino/shd/>

E-mail : i.r@seino.co.jp